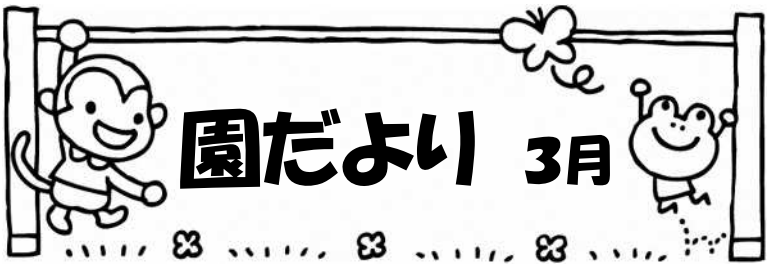
教育目標　すくすく　ぐんぐん　にこにこ



令和６年２月２９日
第５５０号
北区立じゅうじょうなかはら幼稚園

園長　髙沢　ゆみか

共に歩んで

早いもので、今年度の登園もあと１０日余りとなりました。間もなく幼稚園を巣立つさくら組の子どもたちは、これまでの園生活を振り返りながら、大好きだったこと、心に残っていることなどをみんなで行う『さくらぐみタイム』を学級で楽しみながら、園での残りわずかな日々を惜しむように過ごす姿が見られます。毎年この時期になると、柔らかな陽射しの中で遊ぶ子どもたちを見ているうちに、入園してきた頃からこれまでの姿が思い起こされ、しみじみとした気持ちになると同時に、子どもたちの姿をとてもまぶしく感じます。みんな本当に大きくなったな…子どもたちのもつ無限の力や可能性と希望にあふれる未来が、自然の生命力を感じる春の気配と重なり、胸がいっぱいになる季節です。

ちゅうりっぷ組の子どもたちが、先日私のところにやってきて、「園長先生、私たち、さくら組さんとお別れしたくないんだけど…」と複雑な気持ちを伝えてくれました。自分たちがもうすぐさくら組になることはとても楽しみなのだけれど、今のさくら組さんとお別れするのは寂しいのだ、と。そして、(そのような気持ちを抱きながら)お別れ会をしたいから、さくら組には内緒で園長先生も手伝ってほしい、とのことでした。お別れ会に向けては、両クラスが互いのことを思いながら内緒でプレゼントを作っています。入園した頃は、「みんな」という言葉に自分が含まれていることも知らなかった子が、一生懸命に相手を思いながら取り組む様子に、心の豊かな育ちを感じます。共に歩んできた「みんな」がいるから、人を思う気持ちが育まれるのです。

数日前、箱根駅伝の給水員を務めた学生がテレビで取り上げられていました。ランナーとして出場することはできなかったけれど、仲間の選手がこの先も走り切ることができるよう、並走しながら飲み物のボトル(力水)を渡す５０ｍに大学４年間のすべてを賭けたと話す姿に、幼稚園の教員としての思いが重なりました。人生１００年時代と言われる今、子どもたちの人生において幼稚園で過ごす時間は、給水の５０ｍに例えられるほどわずかかもしれません。しかし、１年の締めくくりの時期を迎え、私たち教職員が子どもたち一人一人に注いできた思い、共に歩んできた幼稚園での日々が、子どもたちのこの先の人生を支える力水であってほしいと願っています。

最後になりますが、今年度１年間、本園も共に歩んでくださった皆様に大いに支えていただきました。

共に歩み、温かく見守り、支えてくださった保護者、地域、ご関係の皆様に心より深く感謝申し上げます。

１年間ありがとうございました。

今月の指導のねらい

＜ちゅうりっぷ組＞
- 自分なりのめあてをもって遊ぶ中で、自分の思いや考えを言葉で伝えたり、友達の言葉を聞いたりしながら、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
- 学級全体の活動に進んで取り組み、楽しさや満足感を味わう中で、進級への期待感をもつ。

＜さくら組＞
- 幼稚園生活を振り返り、自分の成長を喜ぶとともに小学生になることに期待感をもつ。
- 園生活や遊びに主体的に取り組み、学級の友達と互いの良さを認め合いながら、自信と自覚をもって行動する。